第 2012-10 号

恵みと真理のニュース

2012 年 5 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

[証]　下半身マヒを治してくださいました。

私はイエス様を信じる家庭で生まれました。幼いごろからいつもイエス様と共にする雰囲気の中で育てられました。

毎朝早天礼拝に行ってきたお祖父さんは家族一人一人の名前を呼びながら祈っていました。私はその祈り声を聞きながら成長しました。私の家族がイエス様を信じるようになったことは、祖父のお母さんがある宣教師に会って“イエス様を信じるとあなたの子どもたちが祝福されます。”という話を聞いてから教会に通うことになったのです。その後祖父のお母さんから次々と信仰生活を続きながら、今6代目の信仰家庭をつくることができました。

1990年4月、ブゴク(韓国の地名)へ引っ越ししました。荷物を片づけたら窓の向こう側に恵みと真理教会の首席区域長と区域長が通る姿が見えました。私はそのまま二人のところに行って教会に行く道と礼拝時間を聞きました。そして妻と娘を連れて恵みと真理教会アンヤン(韓国の地名)聖殿に行って礼拝を捧げました。教会に登録した後から、毎週8時の礼拝に参加して当会長牧師先生のメッセージを聞いてたくさんの恵みを受けました。そして、金曜徹夜礼拝にも欠かせず参加するようになりました。恵みと祝福の中で信仰生活を続いたある日、1990年9月のことです。会社から帰ってきたら妻が話したいことがあると言いながら、何かを持って来ました。それは児童区域長のカバンでした。私はとても驚きました。その理由は、私が先にイエス様を受け入れて、その後に妻を伝道して一緒に信仰生活をするようになったからです。しかし、妻は“あなたより早く区域長になった。”と言いながら喜びました。その日の夜、私も区域長になる使命を与えてくださいと神様に切なく祈りました。そして神様の恵みでその年の10月、区域長と任命されました。感謝の気持ちをもって区域のために働きました。そして1991年8月には首席区域長と任命されました。

再び感謝の気持ちで出勤前30分間、会社から帰って来て30分間、私に与えられた地域に回りながら祈り続けました。私の区域の男子たちが祝福されるように祈りました。

1991年3月ブゴク(韓国の地名)聖殿に教会学校ができました。そして私に教会学校の管理役が与えられ、先生としても奉仕をするようになりました。その年の夏、夏聖書学校を開催しました。地下の狭いところで行われましたが、神様の恵みが溢れる時間でした。その後、ブゴク(韓国の地名)聖殿が新しく大きく建築されて今は広いところで礼拝を捧げることができます。また、夏聖書学校も広いところで行われるようになってとても感謝です。

私は教会学校の補助先生から始まって、総務、部長執事、現在部長長老として22年目奉仕をしています。

2001年の1月2日のことです。急に足がマヒされて動くことができませんでした。救急車で運ばれて総合病院の救急室へ行きました。当時の医者の診断によると下半身マヒのため、手術しなければならないという結果でした。私はできれば手術はしないようにと、神様に祈りました。そして手術日はどんどん延び始めました。その理由は精密検査を行ってから再び手術日を決めるということでした。さらに4, 5番の腰脊椎の神経炎症のため当分は横になって生活しなければならないと言われました。そのため検査のときも、体を動かすことができなかったためベッドからベッドへ移りながらすべての検査を受けました。私はとても辛くて神様に祈りました。“主よ、私を管理者としてくださって聖殿で奉仕できるようにしてくださり感謝します。これからも奉仕を続けるように私の病気を治して下さい。”次の日、神様が私の祈りに答えてくださって驚くことがおきました。片方の足の神経が活きて動くことができるようになったのです。その後、体の調子もよくなってきました。入院中、私のために祈ってくれた大教区長、教区長、聖徒たちの祈りが大きな力になりました。“イエスは、彼らをじっと見て言われた。「それは人にはできないことですが、神は、そうではありません。どんなことでも、神にはできるのです。」”(マルコ10:27)この御言葉に頼り、祈りながら前に進みました。そして2月12日の主日、松葉杖を持って教会に行って礼拝を捧げました。主の見えないその手が私を治して下さって、手術を受けなくても良いようにしてくださいました。そして何日後、退院することができました。神様が下半身マヒを治してくださって自由に礼拝を捧げ、奉仕するようにしてくださったことに感謝します。今は家族みんなが教会で奉仕しながら頑張って信仰生活をしています。いつも主と共に歩む家庭、いつも主に従順する家庭になることを願っております。

[信仰コラム]　聖書に啓示された復活

まことに、まことに、あなたがたに告げます。死人が神の子の声を聞く時が来ます。今がその時です。そして、聞く者は生きるのです。それは、父がご自分のうちにいのちを持っておられるように、子にも、自分のうちにいのちを持つようにしてくださったからです。また、父はさばきを行なう権を子に與えられました。子は人の子だからです。このことに驚いてはなりません。墓の中にいる者がみな、　子の声を聞いて出て来る時が来ます。善を行なった者は、よみがえっていのちを受け、悪を行なった者は、よみがえってさばきを受けるのです。(ヨハネ5:25~29)

キリスト教は復活の宗教です。復活を信じない者はまことなるキリスト人ではありません。そのため、復活について正しい知識をもって理解することはとても大事です。これから復活について三つに分けて述べます。

第一、“もし、復活がなければ”を前提で述べます。復活がなければ聖書は嘘を書いた本になります。その理由は、聖書には復活に関する予言や約束がたくさん記録されているからです。もし復活がなかったらイエス様は嘘をついたという結論になります。その理由は、イエス様自信が自分の復活について予言を語ったからです。なお、もしイエスキリストが復活されなかったら、キリスト人たちがどんなめにあうのか、聖書で詳しく描いています。“そして、もしキリストがよみがえらなかったのなら、あなたがたの信仰はむなしく、あなたがたは今もなお、自分の罪の中にいるのです。そうだったら、キリストにあって眠った者たちは、　滅んでしまったのです。もし、私たちがこの世にあってキリストに単なる希望を　置いているだけなら、私たちは、すべての人の中で一番哀れな者です。”（Ⅰコリント15:17~19）しかし、イエスキリストは復活されました。すべてのキリスト人は今後復活されます。

第二、二種類の復活があります。それは儀人の復活と悪人の復活です。イエスキリストの恵みで儀人になった聖徒の復活した体は神霊な体です。その体は尊い形態になり、魂と結合して永遠な祝福を受けることができます。しかし、神様を信じない者の復活した体について聖書が描かいたものはありません。しかし、儀人の復活した体の状態と必ず大きな違いがあるはずです。命の復活と審判の復活があります。イエスキリストを信じる時点から始まって、信仰の中で聖徒たちは永遠の命を得ることができます。神霊な体に変化することは命の復活なのです。しかし逆に、イエスキリストを信じない不信者たちの体と魂が審判を受けるようになります。このために復活することは審判の復活とも言います。儀人の復活、命の復活はイエスキリストの復活と似たような関連性をもっています。

第三、復活した体についてです。復活した体の本質は我々の経験、考えを超えるものです。

弟子たちはなくなったイエス様が急に現れた姿を見てとても驚きながら怖がりました。そして、彼らは今見えている者が霊だと思っていたのです。しかし、復活されたイエス様は肉体から分離された魂の姿ではありませんでした。そしてイエス様は驚いている弟子たちに自分の手足を見せ、手の穴を触るようにしました。その他にもイエス様は弟子たちが焼いた魚を頂きました。また、すべての門が閉じっている状態で急にイエス様が現れたり、消えたりしました。エンマオへ移動中だった弟子たちはイエス様が同行していることも会話していることも知りませんでした。イエス様が弟子たちと一緒に食事をするとき、パンを持ってきてその上に祝祷して弟子たちに分けてあげました。そしたら、彼らの目が開き、イエス様であることを知ることができました。

聖書には私たちの低い体がイエスキリストの栄光の体のように変わると書いています。

神様がアダムとイブに与えてくださった体は今私たちの体とは比べられないほど、素晴らしかったと思います。しかし、彼らが犯罪を犯したため今、私たちのように病気にかかったり、障害をもっていたり、老けて見苦しくなったり、亡くなってくさる体になってしまいました。さらに、魂もきづや罪で死んだ状態になってしまいました。しかし、神様の愛と恵みで罪を許してもらい、精霊で生まれ変わる道が開かれました。また、復活して新しい体になる道が開かれました。その道はイエスキリストなのです。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

決してあなたから離れず、
決してあなたを置き去りにはしない

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

人生は平安の道より険しい道がもっと多いと言っても過言ではないです。だから、誰にも苦難にあって心配、悲しみ、苦しむことがあるもので決まっています。
それで、本文は私たちが常に読んで黙想しなければならない言葉であります。　そのばかりでなくビジョンを持って進取的に働いている人も本文は昼夜に黙想しなければならないお話です。
今から本文の言葉を顧みながら恵みを受け取ります。

第一、『わたしは、決してあなたを捨てず、決してあなたを置き去りにはしない。』と教えた

神の言葉を直接受けた者が誰で、実際にどんな体験ができたかを旧約聖書に登場する人物から調べて見ます。
ヤゴブは双子兄さんであるエサワの長子権を小豆粥で掛け合って渡されました。お父さんに自分がエサワだと欺いて長子に与える祝福を横取りしました。
これによって 敵愾心抱くエサワはヤゴブを殺そうと決心して機会を狙っていました。
ヤコブは 敵愾心抱くエサワから逃げてパダン.アラムへ住んでいるおじラバンの所へ旅立ちました。
行く途中に神様がヤコブの夢に現れて約束の御言葉をくださいました。
『見よ、わたしはあなたと共にいる。　あなたがどこへ行ってもわたしはあなたを守り、必ずこの土地に連れ帰る。私はあなたに約束したことを果たすまで決して見捨てない。』（創世記28：15）
その以後からヤコブの生涯は実に助ける神様が離れない共にする日々でした。
ヤコブは北メソポタミアへ位置したパダン.アラムまで無事に行っておじのラバンの家に着きました。
ヤゴブのおじラバンはとても賢い人でした。ヤゴブの一生を作男で使おうと決心しました。ヤゴブに対する賃銭契約を十回も巧みに変えました。
しかし、ヤコブは大金持ちになりました。神様が彼を離れず助けてくださったからです。
ヤコブは神様が“あなたの先祖の国へかえり、親族のもとに行きなさい。” 御言葉に従って家族と自分のけだもの群れを連れて母方のおじさんが分からないように去りました。
後でわかったラバンは怒って七日の道のりを追いかけて行きました。
しかし、ラバンの夢で **『ヤコブを一切非難せぬよう、よく心に留めておきなさい』**と 神が話したのでそこを去って自分の家へ帰って行きました。
ヤコブはヤボク川を渡るようになった時、使いの者が帰って来て、**「兄上のエサウが四百人のお供を連れてこちらへおいでになる途中でございます」**と報告しました。ヤコブは非常に恐れ、思い悩みましだ。
その日の夜、何者かが夜明けまでヤコブと格闘しました。彼が捕まっている方は神様でした。
夜明けになると神はヤコブの名を変えました。
『これからはイスラエルと呼ばれる。お前は神と闘って勝ったからだ。』と言った。
それだけではなく、彼を害しようと近付いたエサワの心まで変えました。エサワがヤゴブを見る時に恨みや怒りの感情が春雪とけるようにとけて憐れむ心が生じました。そしてヤゴブが行く道の保護者になると自ら要請しました。
ヤコブには１２名の息子がいました。
ヤコブはヨセフを特別に愛しました。ある日、ヤコブはヨセフを野原で羊を飼う兄たちに行かせました。偏愛することに反感を持っていたヨセフの兄たちが、ヨセフを捕らえてエジプトに下がる商人に売ってしまいました。
そしてヨセフの血が付いた着物を父ヤコブに見せました。
ヤコブは、それを調べて言った。**「あの子の着物だ。野獣に食われたのだ。ああ、ヨセフはかみ裂かれてしまったのだ。」**ヤコブは自分の衣を引き裂き、粗布を腰にまとい、幾日もその子のために嘆き悲しんだ。
それから数年経った後　ヤコブはヨセフがエジプトの民のつかさになったのがわかりました。
ヨセフがお父さんと兄弟たちの家族をエジプトに招待しました。ヤコブは今まで過ごしたどの日より幸せな日々でした。
苦難が全然ない人生はありません。
しかし、神様が離れずともにしてくだされば苦難も有益になって.さらに勝利と光栄を得るようになるでしょう。
イスラエルの偉い指導者モーセに関して調べます。神様がモーセを呼んでイスラエル子孫をパラオの手から救い出してガナン地へ導きなさいと命じました。
当時にモーセは80歳の年寄りだったし羊飼いでした。モーセが大きい使命を受けて言いました。
「わたしは何者でしょう。どうして,ファラオのもとに行き,しかもイスラエルの人々をエジプトから導き出さねばならないのですか。」（出3：11）
神は言われた。**「わたしは必ずあなたと共にいる。」**（出3：12）
果してモ-セはイスラエル民をパラオの支配から解放させて、エジプトから導き出しました。
200 万を越える人々が 40 年間荒れ野生活にも関らず、裸で、飢えて、死ぬ者は一人もいなかった.です。
モーセが使命を終えてヨシュアに任務を渡すごろ民に言いました。
『強く、また雄々しくあれ。恐れてはならない。彼らのゆえにうろたえてはならない。あなたの神、主は、あなたと共に歩まれる。あなたを見放すことも、見捨てられることもない。』（申命記31：6）
神はモーセの後継者ヨシュアにいいました。
『一生の間、あなたの行く手に立ちはだかる者はないであろう。わたしはモーセと共にいたように、あなたと共にいる。あなたを見放すことも、見捨てることもない。強く、雄々しくあれ。あなたは、わたしが先祖たちに与えると誓った土地を、この民に継がせる者である』（ヨシュア１：5-6）
ヨシュアにはモ-セの後を引き継いでイスラエル子孫を指導することが大変負担になる事でした。
しかし、決定的に重要なことは神様が一緒になさるか，なさらないかです。神様は約束したとおりにヨシュアを離れず置き去らなく共にしました。　そして、ヨシュアはイスラエル子孫をガナンへ導きました。それに,その地を征腹して民たちに生の基盤を分配してくれました。
神様がヤコブ、モーセ、ヨシュアに話した御言葉は神様に選ばれた私たちにも同じく適用されます。

二番目、神様が聖徒を決して離れず、決して置き去らないというお話を私たちが確信できる根拠を分けて申し上げます。

第一、神様は真実なお方です。
人は気を変わって嘘をつくが、神は偽りできません。神が選んだ者が嫌やになって離れ去る事はないです。

第二、神様の意志を妨げることができる者がいないからです。
神と私　たちを分離させる者はどこにもいません。万物よりさらに大きい神様を対敵する者はどこにもないです。

第三、神様は私たちの救うためさらに大きい犠牲を払ったのが事実です。
神様は私たちを拘束しようと独り子を送ってくださったし、イエス様は私たちのために命を亡くしました。、だから、聖徒を離れず置き去りしません。聖徒の皆さんに向って神は『わたしは，決してあなたから離れず，決してあなたを置き去りにはしない』と言いました。

三番目は、『わたしは、決してあなたを捨てず、決してあなたを置き去りにはしない。』と言われました。

神の言葉を確信し、意志するためどんな態度で生きる　べきかを調べて見ます。

第一、心配や恐ろしさを克服して大胆な姿勢で生きるようになります。
神様が私を離れず、私を置き去りはしないという確信は、私たちに心配と恐ろしさを除けるようにします。そして、平安で胆大な心を持つようにします。

第二、倒れることがあっても、再び立ち上がるようになります。
挫折と落胆が近寄ってもしばらくすれちがうだけなので、心に席を取ることはできません。神様が私を離れず、私を置き去らないという事実よりもっと大きい慰労と励ましはないです。

第三、神様がくださるビジョンを持つようになります。
神様が私を離れず、置き去りはしないという確信があれば神様から下さったビジョンを受け入れることができます。

第四、　欲深と貪心を退けて満足を感じながら暮すようになります。
神様が私を離れず、置き去りはしないと言う事実の確信ができれば欲を出して行う理由がないです。神様が時に応じて助ける恵みを与えてくれるからです。

第五、楽しい心で生きるようになります。
かみさまが私を離れず、置き去りはしない.私とともにしておると思う事実が認識すればするほど心の喜びはさらに満ちるようになります
神様は自ら『わたしは、果たしてあなたから離れず、果たしてあなたを置き去りにはしない』と話しました。＜果たして＞というより＜決して＞という表現がもっと原文に近い表現です。

このお言葉はイエスキリストを信じるすべての人々に当たるお話です。イエスキリストを信じればアーメンで答えててください。
皆さん、今この場で告白してください。神様は決して私を捨てません。神様は決して私を　置き去りにはしません。神様は皆さんを　捨てません。神様は決して皆さんを　置き去りにはしません。そして直ちに　苦難よりもっと大きい光栄を予備してくださいます。アーメン